

科学と社会委員会（第22期・第5回） 議事要旨

1 日 時 平成24年4月10日（火） 12:00～13:30

2 場 所 日本学術会議5階 5-C(1)会議室

3 出席者

(委員) 小林 良彰 (委員長: 第1部) 生源寺眞一 (副委員長: 第2部)
上野 千鶴子 (幹事: 第1部) 依田 照彦 (幹事: 第3部)
丸井 浩 (第1部) 吉川 洋 (第1部)
戸山 芳昭 (第2部) 鷺谷いづみ (第2部)
黒田 玲子 (第3部) 土井美和子 (第3部)
(事務局) 中澤参事官、石原参事官、中島学術調査員、鳥生審議専門職、
原審議調査専門職

4 議事要旨

- (1) 第3回議事要旨(案)の確認
- (2) 課題別委員会にかかる指針等の一部改正(担当委員の人数及び、委員会へのオブザーバー出席)について、小林委員長から説明があった。
- (3) 分科会の活動等について
 - ① 科学力増進分科会の審議状況について、事務局説明の後、分科会所属委員から発言があった。
 - 色々なところでサイエンスカフェが行われるようになったので、学術会議ならではのものが開けないか、という議論がある。現状の形のは1年12回を半数の6回に減らし、残りは地方開催するとか、シンポジウムと一体的に行う等の意見が出ている。
 - 現状のサイエンスカフェは文科省のスペースで金曜夜に行っており、率直に言って人が集まらない。ならば違う形を考えるべきではないか、という議論の流れがある。
 - 逆に文科省のスペースで行うのならば、そこでしか出来ないものを、という意見もあった。
 - サイエンスカフェについては、分科会委員長からは報告を受けていない。また、分科会の議事要旨については、事実とは異なる記載があるので事実には訂正して頂きたい。
 - ② 年次報告検討分科会の審議状況について、事務局から説明があった。
 - ③ 「知の航海」分科会の審議状況について、鷺谷委員から説明があった。
 - ④ 課題別審議検討分科会の審議状況について、小林委員長から説明があった。
 - ⑤ 政府、社会及び国民等との連携強化分科会の審議状況について、小林委員長から説明

があった。

- 学術会議の提言等の発出について、従来の紙やホームページだけでは世の中に届きにくいので、どのようなやり方があるか、ご意見を頂いた。
- 学術会議、日本学術振興会、科学技術振興機構の三つの組織の間の協力関係について、ご意見を頂いた。
- シンポジウムや提言等について、執筆者等が直接話し、それを動画で配信することが必要である、という意見があった。
- 事務局 学術会議全体のシステム、動画の配信方法等について検討する必要があるので、IT環境整備推進委員会でご議論頂く必要もあろうかと思う。

(4) 課題別委員会の審議状況について事務局から説明があった。大学教育の分野別質保証推進委員会の在り方について、担当委員から発言があった。

- 分野別参照基準について、第三部の部会では、部としてどういう対応をするかが議論になった。部としての全体像が見えず、やりにくい問題だと思う。
- 各分野別参照基準については、いくつもの分野を担当委員三人で何度も査読することとなり、かなり厳しい。査読の体制や参照基準の分科会そのものを他に移行することも考えられる。
- 分野別参照基準については、①親委員会が依頼するのではなく、各分野の手を挙げたところが作成するという、ボトムアップで行っているため、ばらつきが大きい。もっと親委員会がリーダーシップを取るべきではないか。また、②市民性の重視など、審議依頼・回答で示されたコンセプトが、分科会での各論に一貫性を以て反映されていない印象を受ける。この点を徹底すべきではないか。更に、③作成した参照基準を何のために使うのか。どのようにでも使えるが、効果の測定は出来ないというのでは、いかがなものか。これらの面でも親委員会がリーダーシップを取るべきではないか。

●その後、意見交換が行われた。

- 形としては、分科会を全て分野別委員会で行い、親委員会のみ課題別委員会に残すという意見もある。
- 言語・文学分野など、既に分科会が設置され、先行しているものだけは、課題別委員会できちんとした参照基準をモデル的に作り、後は、分野別委員会で行うのがよいのではないか。
- いずれにしろ親委員会がリーダーシップを取って、分科会と連携を取る場を作って頂きたい。
- 査読をどうするかを考えると、①委員会の体制はこのままで、各部署で先に事実上の査読を行い、そのコメントを頂き、担当委員が査読を行う、②今後は、分科会自体を課題別委員会から完全に切り離し、分野別委員会の下で、各部署で査読をして頂く、の二つが考えられるが、①が現実的ではないかと思う。

●これらの意見を踏まえ、幹事会等において、大学教育の分野別質保証推進委員会の在り方についての検討を促すこととなった。

(5) 日本学術会議のロビーの活用について

小林委員長から発言があり、意見交換があった。

- 会長から海外のアカデミーのように般市民の方々が来て、学術成果の展示を見られるようなものにできないかという指示があった。しかし、そのための予算はどの程度あるのか。
- 学術関係の雑誌や知の航海シリーズの新刊を置けるようなスペースは欲しい。
- 展示物というと難しいイメージになるので、サイエンスカフェの講師のような方と気軽に話し合える沙龙的な雰囲気にはできないか。
- 事務局 予算自体は全く無いので、先ず、どのようなロビーにしたいのかというイメージ作りをするべきではないか。予算獲得はなかなか難しいと思う。

●これらの意見を踏まえ、次回委員会までに委員からアイデアを募ることとなった。

(6) 課題別委員会「アジアの大都市制度と経済成長に関する検討委員会」の担当委員について、以下の通り決定された。

●丸井委員、鷺谷委員、依田委員

(以上)